



文武両輪

～学習も行事も部活動も～

令和4年11月11日

【文責】校長 蔦川 誠

「ドリー夢メーカー」と生きる！

11月9日(水)の3・4校時、第2回キャリア教育講演会が開かれました。

講師は腰塚勇人(こしづかはやと)先生で、先生は元・中学校体育教師で現在は全国各地で「命の授業」の講演活動をしておられます。演題は「命の授業 ～ドリー夢メーカーと今を生きる～」でした。プロフィールを紹介します。先生が神奈川県の公立中学校教諭だった時に、スキーでの大事故をきっかけに全身マヒの体になってしまいました。その後の懸命なリハビリによって社会復帰できるまでに回復して、この壮絶な体験を経て人生も人生観を大きく変化したそうです。体育教師を退職後、現在は「命の授業」の講演を通して命の大切さを訴えておられます。また、その姿がフジテレビの「奇跡体験アンビリバーボー」で放映されると大きな反響を呼んで、「命の授業」や「感謝の授業」等の著作や他のテレビ出演もあります。今回の本校での講演が、2093回目の講演になるとのことでした。

講演の中で、御自分の経験から、人間だれでも周囲や自分自身の中に、常にプラス思考で命を喜ばせる「ドリー夢メーカー」と、一方で常にマイナス思考で命を傷つける「ドリー夢キラー」がいる。まずは自分が「ドリー夢メーカー」となって、たった一つしかない命を大切にしよう、とお話してくれました。更に誰でも周囲には、その人のことを大事に想っている「ドリー夢メーカー」がたくさんいるよ、ともお話してくれました。最後に、真の知識は「幸動」あるのみ、自分の命や友達や家族の命を喜ばせる「幸動」をしてほしいと、生徒たちにお話してくれました。※「幸動」とは、命を喜ばせる行動

腰塚先生の熱のこもった講演は、生徒たちの心に深い感動を与えてくれました。そして、何よりも全校生徒一人一人が、命について深く考える貴重な時間となりました。

生徒の感想を紹介します。(一部抜粋・修正は筆者)

1年1組 山田 朔楽

ドリー夢メーカーという言葉聞いたとき、自分にはそんな人いるのかな、と考えてしまいましたが、自分でもびっくりするくらい思いついて「いっぱいいるんだ」と驚きました。ドリー夢メーカーは自分の支えや励みになってくれることが分かったので、多くのドリー夢メーカーを見つけ、多くの人のドリー夢メーカーになりたいな、と思いました。

1年2組 土師 明歩

講演を聴いて「自分が自分の一番の応援者になる」という言葉が素敵だと思いました。私は自分を喜ばせるために、自分をしっかり理解しようと思います。友達の命を喜ばせるために、小さな変化にも気づき、優しく声をかけます。家族の命を喜ばせるために、自分のできる最高の親孝行をします。

1年3組 金濱 のぞ美

腰塚さんの壮絶な体験を通して、命の重さを改めて感じました。命がないと、楽しむことも悲しむこともできなくなります。命を粗末にする原因のドリー夢キラーにはならないようにします。自分の中のドリー夢キラーとうまく対応し、もっといろいろなことにチャレンジしていこうと思いました。自分の夢を語り、行動していこうと思いました。

2年1組 鍋久保 心

自分の中のドリー夢キラーに負けず、ドリー夢メーカーとなって、辛いことにも諦めずに取り組んでいきたいです。僕はこれから様々な壁にあたると思いますが、自分の中のドリー夢キラーに負けずに、夢に向かって諦めずに前進していきたいです。友達には、自分から助けてあげるようにしたいです。

2年2組 山本 穂花

私の夢は、腰塚さんにお会いして命の授業を受けることでした。前からずっと楽しみにしていました。講演を聴いて、私は誰かのドリー夢メーカーとなって、勇気や希望を与えられる人でありたい、と思いました。自分が喜ぶ幸動は、誰よりも先に自分をほめることです。友達が喜ぶ幸動は、何か困っていることがあったら、一緒に考えることです。私は、これからも誰かのために精一杯生きていこうと決意します。

2年3組 金澤 凜音

私の周りには「助けて」と言える、優しい友達や親、先生たちがいるので、何かあった時には助けてもらって、友達が「助けて」と言ったら、いつでも助けてあげるような優しい人間になりたいと思います。腰塚さんの講演は、今までで一番心に残りました。それは腰塚さんが一生懸命に私たちに伝えてくれたからだと思います。ありがとうございました。

3年1組 大久保 暁斗

僕は腰塚さんの講演を聴いているうちに涙が出そうになりました。僕はたまに辛い時があり、いろいろと嫌になってしまう時がありますが、ちゃんと相談できる友達がいるのでとてもうれしいし、「ありがとう」という言葉が浮かんできました。僕も、腰塚さんのような何事も頑張ることのできる立派な大人になりたいと思いました。2093回目の御講演、ありがとうございました。これからも腰塚さんの言葉を忘れずに、全力で生きていきたいと思いました。本当にありがとうございました。

3年2組 出口 詠葉

命の危機にあっても命を自分や周りの人のために使おうとした、腰塚さんの講演を聴いて、自分が誰かのドリー夢キラーになっていないか、誰かのON人になれているかなど、しっかりと考えてみました。「教師はできない」と言われ絶望したにもかかわらず、希望を失わずに自分の手で明るい未来を創った腰塚さんが、私にとってのドリー夢メーカーです。私は自分の命を、自分の夢を1つ1つ叶えて希望をもつために使いたいです。また、周りの人を助け支え、常に笑顔にさせるためにも使いたいです。

3年3組 工藤 天斗

僕はいつも周りに仲間がいるのが当たり前だと思っていました。でも、講演を聴いて、周りの仲間はドリー夢メーカーだったんだと気付きました。僕は肘の故障が見つかって、今年8月に手術しました。その期間、投げたくても痛くて思いっきり投げることができずに苦しんだ時期もありました。でも、周りに仲間がいたから、自分自身の中学野球を終えることができました。本当にありがたかったです。このように考えることができるのも、腰塚さんの講演があったからです。腰塚さんのお話を今後の人生に活かしていきたいです。

